

天声人07年8月29日 PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/252/2021_2022__E5_A4_A9_E5_A3_B0_E4_BA_BA_E8_c105_252059.htm 横 烈な作で知られた小家立原正秋が、名についていていた。ほとんどの便はペンネムで来るが、まれに本名で届くものがある。本名をしげしげと眺め、「これは一体なのか」と妙な分になる。そんな内容だったとする。素以风格犀利闻名的小说家立原正秋曾经就笔名写过一段话。（他的）大部分的信件都是冠以笔名寄来的，不过偶尔也有以其本名寄来的。仔细端详着本名，便会泛起一种“这到底是谁啊”的奇妙心情。（他）记得有过这样的事。似た分を、モンゴル人のドルゴルスレン？ダグワドルジも味わっているのかもしれない。「朝青」なるしこ名を眺め、「これは一体なのか」と。慎の子はうかがい知れない。だが日を重ねるほど、彼の心の中で、本名の嵩（かさ）がしているように思われる。蒙古人高尔斯仁 达格瓦道尔吉或许也品味着相似的感受。望一眼“朝青龙”这个称呼，也会（疑惑着），“这究竟是谁？”无法想象（他）那小心起解的样子。然而人们觉着，越是随着岁月的流逝，在他的心中，本名的分量就越来越重。きびしい状への配だろう。日本相会は横の国をめた。早ければ今日にも（た）つ。ったきり、二度と「朝青」にはらない可能性も、なくはないらしい。ここまでこじれた任の一端は、丁な意思通を欠いた匠と会にもあろう。或许是担心着那严峻的情形吧。日本相扑协会同意了高尔斯仁达格瓦道尔吉横纲的归国。早的话，今天就会出发。一旦回国，似乎就不太

可能再以“朝青龙”的身份回来了。迄今为止，在使事情复杂化的责任问题上，缺乏妥善沟通的师傅与协会都有一份吧。この世界で匠といえ、のも同然とく。横会委だった作家の舟一が、双山父子を回想している。双山は幼い、友の吹き矢が当たって右の目を失明した。父は、だれが矢を吹いたのか知っていながら、死ぬまで口をざしけたという。听说，在（相扑）这个世界里，说起师傅来，俨然如生父。曾经是横纲审议会委员的作家舟桥圣一遍回忆起了双叶山父子。双叶山儿时曾因朋友的吹箭而右眼失明。据说，他的父亲虽然知道是谁吹的箭却直到死都闭口未言。恨まれる者より、恨む本人にとってどれだけマイナスになるか。分を踏まえた深い情のゆえだった、と作家はいている（「片目の横双山」）。作家（舟桥圣一）这样写道，“比起仇人，对于怨恨者本人而言又有多少好处呢？因为这是基于识大体之上的深沉爱”（《独目横纲双叶山》）。この父にして、品高き名力士ありだろう。双山も眼のハンディを秘したまま、の相を取りけた。（かがみ）もあれば不出来な子もあるとは知りつつ、の口直しに介してみたくなった。这位父亲也是一位品德高尚的名力士吧。双叶山隐瞒着双眼的不利因素，不断挑战无敌相扑。虽然知道有了模范与榜样也会有不肖之父子，然而仍然想讲一讲这个故事以消除纷争。100Test

下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问
www.100test.com